

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	富里市簡易マザーズホーム		
○保護者評価実施期間	令和8年1月20日		～ 令和8年2月20日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	32	(回答者数) 32
○従業者評価実施期間	令和7年1月15日		～ 令和7年2月14日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数) 7
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年4月24日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	親子通園な事で、特性の理解や関わり方に対し直接その場で保護者と話ができる。目的や意味を伝えながら支援を行うことができる。	お子さんの気持ちの崩れや抵抗に対し、保護者と、対応の仕方や解決策を一緒に考えている。取り組みに対する目的などを明確に伝えている。	職員のスキルアップを行うことで、安心して通えるようにし、より良い支援に繋げていく。
2	担当職員による個別支援や、言語聴覚士による言語指導を毎月受ける事ができる。 専門職（公認心理師、作業療法士、理学療法士、小児科医、音楽療法士）による指導を受ける事ができる。	担当職員がつき、お子さんに合った支援の計画を立てることで、具体的にアプローチしていくことができている。専門職による指導を受け、助言を聞くことでより良い関わりや支援ができる様にしている。	専門職指導時のカンファレンスにより、支援に対する幅を広げていく。また、グループの課題の展開に繋げていく。
3	子育てや育児に悩む保護者に対し、周りの保護者と悩みを共有でき相談しあえる。	親子分離の時間を作り、保護者のレスパイトや保護者交流の時間を作っている。話のきっかけ作りとして、グループの懇談会を行った。	定期的に懇談会を行うことでその時の悩みを共有できるようにする。レスパイトの目的も含め、適度に懇談会を行っていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	建物の老朽化。	築年数が古い。	その都度職員が迅速に対応したり、所属課と管理委託している社会福祉協議会に伝え、対応する。
2	公設のため人事異動があることで、職員の経験不足。	人事異動によるもの。	外部の研修などに積極的に参加・受講し、お子さんに合ったアプローチ方法を増やし、瞬時に対応できるようにしていく。また、事業所内でケース会議を行うなど、職員全体の共通理解で支援していけるようにする。
3	保護者の相談事等に対応する時間の十分な確保。	基準に則った職員配置ではあるが、その都度の一人ひとりの心配毎に迅速に対応する時間を確保する事が難しかった傾向にあった。	これまで以上に登園時には声掛けをしながら、様子を確認していくとともに、気軽に声をかけていただくことで迅速な対応に繋げていく。また、グループ全体の様子やお子さんの様子を確認したうえで、相談の時間の確保を行えるようにする。